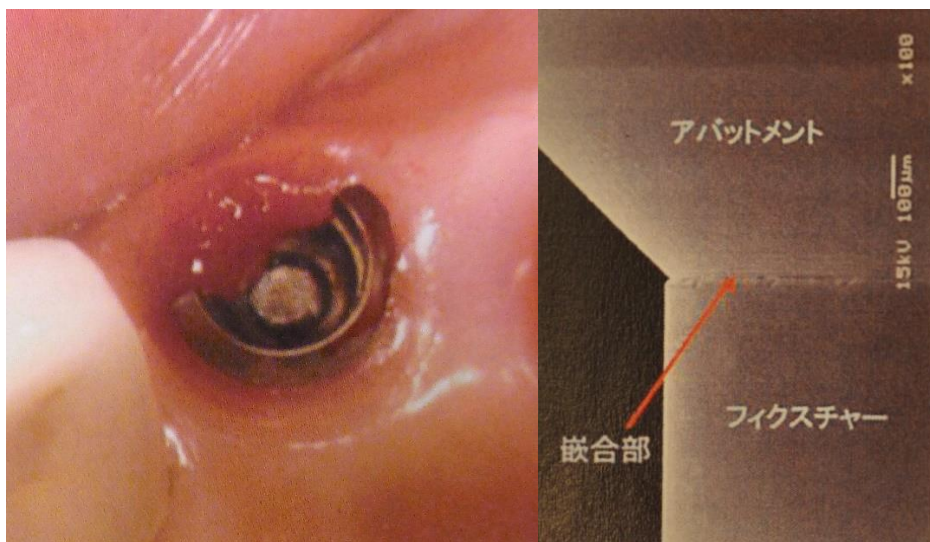


## インプラント破折防止に真剣に向き合っています

まさかインプラントが折れてしまうなんて…  
どうして東京審美会のインプラントは折れないのか？

驚かれるかも知れませんが、他院のインプラント治療では、強い噛む力（咬合力）によってインプラントが折れるというトラブルが発生しています。インプラントの芯が折れる場合と、インプラントの差し込みが割れる場合などが発生していますが、いずれも差し込みの部分（嵌合部）で折れています。



〈破折したインプラント〉

差し込む側（アバットメント）は折れ、差し込まれる側（フィクスチャー）は割れています。割れた大学病院の口腔外科では、このような処置が難しい患者さまの対応をしています。

インプラントが骨にしっかりと結合したまま、折れてしまうと除去するのは、困難な治療となります。

東京審美会では、生涯にわたり、このようなことで患者さまにご心配をおかけすることがないように、破折不いインプラントを慎重に厳選、選別しています。

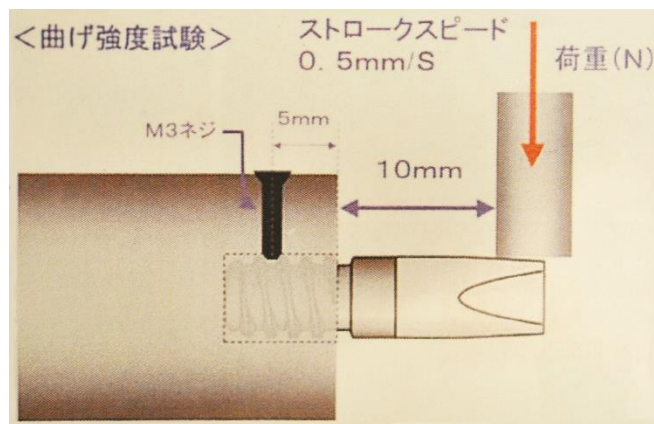
実際、歯根のインプラントの小さな孔に、上部構造のピンを差し込むタイプのインプラントは、構造上、孔のまわりの壁も薄く、差し込むピンも細くなければなりません。



〈一体型のインプラント㊦と、2ピース構造のインプラント㊧（日本・アドバンス）〉

㊦は歯根・上部構造が一体型になっており、㊧は差し込み型の2ピース構造のインプラント㊦です。骨結合が世界一早いインプラントで、炎症が起こると簡単に引き抜くことができます。東京医科歯科大学で開発され、東大病院や三井記念病院など、日本を代表する超一流病院でも正式採用しているインプラントです。

東京審美会では、インプラントに力を繰り返し加える**疲労実験のデータを詳細に分析**。どのタイプのインプラントが、どの程度の力の繰り返しで折れるかということを十分に検討しています。



〈インプラントの破折実験〉

そこで、東京審美会では、解剖学的に咬合力のかかる部位を詳細に検討し、過度な力がかかる部位には、差し込みのない、**歯根と上部構造が一体型の折れないインプラント**を第一優先として厳しく選定しています。

一体型は、インプラントの太さがそのままインプラント体の強さとなっていますから、その分、芯が太く、強い折れないタイプのインプラントだということができます。



〈一体型インプラント㊦と、差し込み型の2ピース構造のインプラント㊧（日本・京セラ）〉

純チタンよりも1.5倍の強度を誇るチタン合金製で、万一の場合でも上顎洞へのインプラントが迷入できない張り出しがあります。

しかし、折れにくい歯根・上部構造一体型のインプラントでは、骨への埋入方向と同時に、咬む歯の方向まで決めなければならないため、骨の形態によっては手術時の埋入方向が難しくなることや、一度埋入されてしまうと**上部構造の角度修正ができない**ため、差し込み型の2ピース構造のインプラントに比較すると**審美性が技術的に難しい**こと、粘膜からアバットメントが飛び出ていることから**感染に対するリスク**が高まることもあり、取扱いをしていない先生も多くいらっしゃるようです。

東京審美会では、再生医療の手法で血液を濃縮して作成したフィブリン・メンブレン

や、フィブリン・ゲル応用することにより治癒を促進させ、安心感のあるインプラント治療をご提供しています。



〈折れにくい一体型インプラント（日本・プラトン）〉

純チタン最高強度のG4グレードのインプラントで、歯根と上部構造の移行部が特に太くなっています。

## 一体型インプラントと差し込み形インプラントの比較

折れにくい一体型（1ピース）インプラントに対して…

差し込み型の2ピース構造のインプラントのメリットは何でしょうか？

差し込み型の2ピース構造のインプラントは、

歯根部分だけを先に骨内に埋入して、**粘膜で完全に縫合閉鎖**することができるため、インプラントが骨に結合するまでの間、**余計な力の作用を防止**することができます。

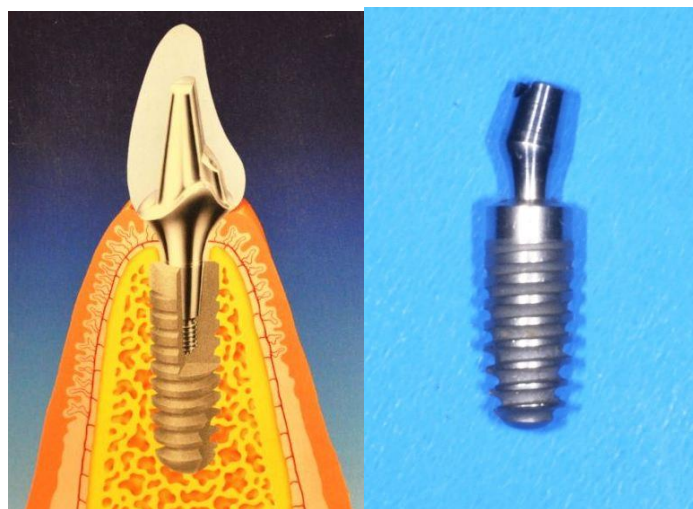
そのため、インプラント治療の確実性がアップします。

東京審美会でも、インプラントを埋入すると同時に骨造成を行う場合などには、

2ピース構造のインプラントを使用することを原則としています。

また、歯根と上部構造が別々の場合には、**上部構造を自由な角度での修正**ができ、審美的に有利な仕上がりを期待できます。

また、上部構造を交換することにより、入れ歯用のインプラントにも変更することができる**フレキシブルな対応が可能**です。



〈差し込み型の2ピース構造のインプラント ① アンキロス（ドイツ）〉

上部構造には、角度を自由につけることができるため、骨の方向に関わらず、患者さまの希望される美しい噛み合わせを再現することができます。

東京審美会でも、**咬合の力の作用が弱く審美性を要求される前歯部**や、**入れ歯用のインプラントに変更するかも知れない可能性**がある場合などは、差し込み型の**2ピース構造**のインプラントを選択しています。

2ピース構造のインプラントが、ガタつかない、破折しないためには、歯根部（フィクスチャー）と上部構造（アバットメント）の精密な適合が求められます。東京審美会が精度の高い、ヨーロッパ、アメリカ、日本の一流インプラント・メーカーしか採用していないのはこのためです。

差し込みにガタつきがあると、強度が著しく低下するからです。

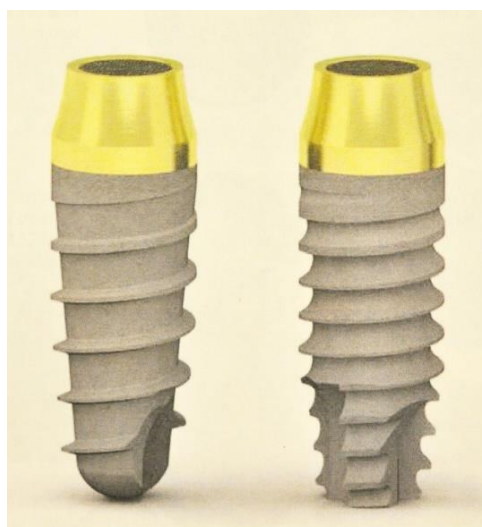


〈差し込み型の2ピース構造のインプラント ② ジンマー (アメリカ)〉

上部構造 (アバットメント) をインプラント本体より細くすることによりできた段差の上に骨が乗って回復します。この構造をプラットフォーム・スイッチングとよび、長期に渡る、骨吸収を抑制すると考えられています。

また、歯根部 (フィクスチャー) よりも上部構造 (アバットメント) を細くすることにより骨が歯根部 (フィクスチャー) の張り出しの上に乗るようになり、骨の吸収を防ぐという考え (プラットフォーム・スイッチング) があります。

東京審美会でも、強い咬合力の加わらない前歯部には、審美性を優先し、差し込み型の2ピース構造のインプラントを採用しています。



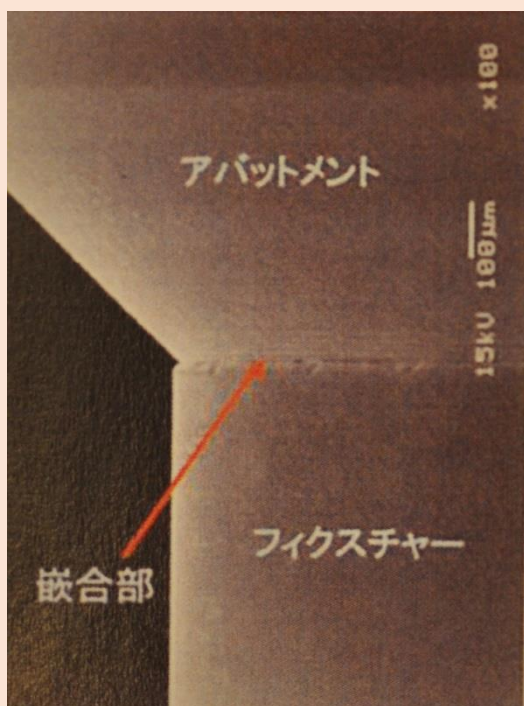
〈差し込み型の2ピース構造のインプラント ③ スウェーデンマルチナ (イタリア)〉

上部が細いため、歯肉が上部に再生され盛り上がってきます。これを B.O.P.T.テクニックとよび、インプラント完成後の美しい歯肉を維持する新しい理論となっています。

👉 **インプラント豆知識**

【 東京審美会で採用している差し込み型の2ピース構造のインプラント 】  
インプラント本体（フィクスチャー）と上部構造（アバットメント）の嵌合が精密に適合していないマイクロギャップがあると、細菌の侵入による不潔域が生じ、インプラント周囲炎の予防に不利になるだけでなく、将来的に噛む力による破折を引き起こす可能性が高くなると可能性が考えられます。

東京審美会が、日本、ドイツ、イタリア、スイス、アメリカなどの一流メーカーのインプラントにこだわる理由も、背景となる精密機械工業の技術力が非常に高く、インプラントの精度も非常に高いことによります。



【インプラント本体（フィクスチャー）と上部構造（アバットメント）が  
精密に嵌合する一流メーカーの精密なインプラント】